

県立高等学校再編計画
(最終案)

平成14年7月

千葉県教育庁

目 次

計画策定に当たって	-----	2
1 計画の趣旨	-----	2
2 計画の目標年次	-----	2
3 計画の性格	-----	2
計画の基本的な考え方	-----	3
1 学校をめぐる状況	-----	3
2 県立高等学校の課題	-----	3
3 目指すべき県立高等学校像	-----	4
4 再編の方向性	-----	5
5 再編後の県立高等学校	-----	6
再編計画の概要	-----	7
1 魅力ある高等学校の設置	-----	7
(1) 単位制高校	-----	7
(2) 「総合学科」の設置	-----	8
(3) 中高一貫教育校	-----	8
(4) (仮称)総合技術高校	-----	9
(5) 「芸術科」の設置	-----	10
(6) 「情報科」の設置	-----	11
(7) 女子校の共学化	-----	12
(8) 国際高校の充実	-----	12
2 学校の配置及び学科再構成等	-----	13
(1) 県全体の学校配置	-----	13
(2) 全日制高校の配置	-----	14
普通科	-----	14
普通系専門学科・コース	-----	15
職業系専門学科・類型	-----	15
-1 農業科	-----	16
-2 工業科	-----	16
-3 商業科	-----	16
-4 水産科	-----	17
-5 家庭科(家政等)、厚生科(福祉・看護)	-----	17
-6 新しい専門学科・類型	-----	18
総合学科	-----	18
(3) 定時制高校の配置	-----	18
(4) 通信制高校の配置	-----	19
具体計画	-----	20

参考資料

計画策定に当たって

1 計画の趣旨

「県民一人一人が、生涯を通して『学ぶ喜び』を感じながら『次代をひらく力』を培うことのできる学習環境の実現」を基本理念とした千葉県教育長期ビジョンでは、住民相互の交流を大切にする「地域コミュニティづくり」、児童・生徒に豊かな人間性を育む「学校教育環境づくり」、そして人生の楽しみや喜びを得られる「県民の学習環境づくり」の3つを基本目標としている。

そこで、県立高等学校再編計画では、

「生徒がその個性を最大限に生かせ、夢の実現に一役買ってくれる学校」

「生徒や教職員が生き生きと活動して、元気のある学校」

「地域の人が集い、地域に愛される学校」

を基本的コンセプトとして策定した。

2 計画の目標年次

社会の変化が著しいことを踏まえ、平成14年度を初年度とし、10年後の平成23年度末（平成24年：2012年春）を目標年次に、段階的に実施する。

3 計画の性格

この計画は、長期的な視点に立った今後の県立高等学校の在り方を示すとともに、それを実現するための県立高等学校再編計画とその具体計画を示すものであり、また、社会状況や財政状況等を勘案しながら推進するものである。

なお、具体計画については、平成14年7月に第1期実施プログラム案を公表し、順次第2期以降の計画を公表する予定である。

計画の基本的な考え方

1 学校をめぐる状況

現代社会は、グローバル化、少子・高齢化の進展をはじめとして大きく変化している。最近では科学技術の分野を筆頭に、さまざまな分野で競争が激化してきており、個性と創造性に富んだ組織と人材を育成する仕組みづくりとともに、独創性と多様性を発揮し得る社会の実現が求められている。

こうした状況の中で、新たな経済社会の基盤づくりが急務となっており、旧態依然としたシステムを大きく変革し、結果平等から機会平等へ、画一性から個性重視へ、強制・横並びから自由な選択へ、行き過ぎた保護から適度な競争への転換などが必要であると指摘されている。

また、人々の心にも変化が見られ、例えば、自分中心の考えやエゴがまかり通ることもしばしば見られ、社会のために尽くす心が軽視される風潮が生じている。こうした大人の心の変化は、子どもの心にも影響をもたらしている。

学校に目を向けると、生徒数の減少、価値観の多様化、家庭・地域の教育力の低下などが顕著になってきている。

子供たちの「生きる力」の不足が顕在化してきており、また最近では、各方面から生徒の「学力低下」が指摘されており、次代を担っていく人材の不足が懸念されている。

高等学校選びについては、普通科志向が強く、また、自分の個性に合わせた「入りたい」学校を選ぶよりも、「入れる」学校を選ぶ傾向が見受けられる。

一方、県立高等学校に対する不信感が増大してきている状況も一部に見られており、学校はその信頼回復に努めていくことが求められている。

さらに、教職員に対しては、社会の変化に敏感で、多角的に物事を見ることのできる、より視野の広い人材の確保・育成や意識改革の必要性が指摘されている。

2 県立高等学校の課題

こうした状況の中で、これからの教育においては、自らが問題を発見し、考え、判断し、解決に向け行動できる人材、生命の尊さがわかる心・他人への思いやりの心・正義感などの豊かな人間性を持った人材の育成を図っていかなければならない。

また、子供たちが基礎・基本を身につけるとともに、高い学力を持ち、常に知的な好奇心を持ってチャレンジできる環境づくりを行い、創造性・独創性のある人材を育てていくことが極めて重要であり、このことが本県の次代を担うリーダーの育成につながるものとする。

特に高等学校教育においては、生徒数の減少への対応、開かれた学校づくりをはじめ、画一的・形式的平等教育からの脱皮、基礎・基本の確実な定着、学力向上への

取組、創造力の伸長、モラトリアムの生徒や倫理観の不足した生徒への対応など、多くの課題が山積しており、それらの課題に対応するために、生徒一人一人がそれぞれの興味や関心を持って生き生きと学び、21世紀を夢と希望を持って力強く生きていけるよう、個性を一層重んじた、多様な選択ができる柔軟な仕組みを持った高等学校づくりを進めなければならない。

それには、各高等学校がそれぞれ特色化・個性化を図るとともに、学校が保護者をはじめ広く県民から信頼を得るためにも、地域コミュニティ形成に積極的に関わり、家庭・地域の人たちと連携・協力しながら、一体となって教育を進め、一層魅力ある高等学校づくりを進める必要がある。

3 目指すべき県立高等学校像

これからの県立高等学校は、次に掲げる基本的コンセプトにより、教育活動を展開していくものである。

このコンセプトは、再編対象となる学校だけでなく、すべての学校が目指すべきであり、その実現が、生徒のみならず県民にとっても魅力のある高等学校となるものである。

また、魅力ある高等学校づくりに当たっては、各学校が自ら何をなすべきかを十分考え、それぞれの主体性を発揮しながら、あらゆる実践を重ね、実現に向けて強く推進していくものとする。

- (1) 生徒がその個性を最大限に生かせ、夢の実現に一役買ってくれる学校
基礎・基本の確実な定着、学力の向上、創造力の伸長等を目指し、多様な学習活動を行う。
学校選択や教科・科目選択の幅の拡大を図り、生徒一人一人の能力・適性や進路希望等に対応できる高等学校づくりを行う。
高い学力に裏付けられた思考力・実践力などを持ち、高い志をもって社会的責任を果たせる、次代のリーダーの育成を行う。
学習意欲のある生徒をいつでも高等学校に受入れられるよう、「やり直し」のきく柔軟な学校システムを構築する。
- (2) 生徒や教職員が生き生きと活動して、元気のある学校
生徒が自ら学び考え、わかるできる喜びを実感できるとともに、教職員も働きがいを感じ、自信と誇りや意欲を持って教育活動に当たる学校づくりを行う。
各学校が自らの創意工夫により切磋琢磨し、生徒が主体性を持って学校生活を送ることができる環境づくりを行う。
- (3) 地域の人が集い、地域に愛される学校
地域や家庭とともに教育を進めていくために、県民に信頼され、身近で愛されるよう開かれた学校づくりを進める。
県民の生涯学習ニーズに応えられる、「地域の学習センター」としての役割を果たす学校づくりを進める。
学校の教育力を地域へ提供する。

4 再編の方向性

こうした課題に対応するため、高等学校の再編の方向性として6点掲げる。

(1) 学校規模や配置の適正化

生徒が多くの友人・教師との触れ合いや、お互いの切磋琢磨により、生きる力を育てていくために、学校規模の確保や配置の適正化を図る。

(2) 「やり直しのきくシステム」の構築

社会の中で生きていくための基礎・基本を重視するとともに、学習意欲のある生徒をいつでも高等学校に受入れられるよう、「やり直し」のきく柔軟な学校システムを構築する。

(3) 学校の再編・学科の再構成

県民のニーズや社会の一層の変化に対応するため、既設校の単位制高等学校や中高一貫教育校への転換、既設学科の総合学科への転換など、学校再編及び学科再構成を行う。

(4) 選択幅の拡大

柔軟な教育課程の編成、学校間連携などを進め、教科・科目の選択幅の拡大を図るとともに、より一層の学力向上を図る。

(5) 開かれた学校づくり

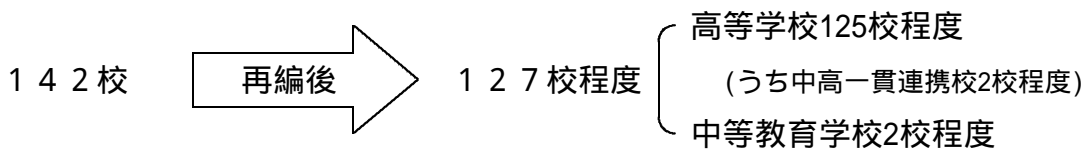
地域や家庭とともに教育を進めて行くために、県民に信頼され、身近で愛されるよう開かれた学校づくりを進めるとともに、県民の生涯学習ニーズに応えられるよう、地域の学習センターとしての学校づくりを行う。

(6) 施設・設備の有効活用

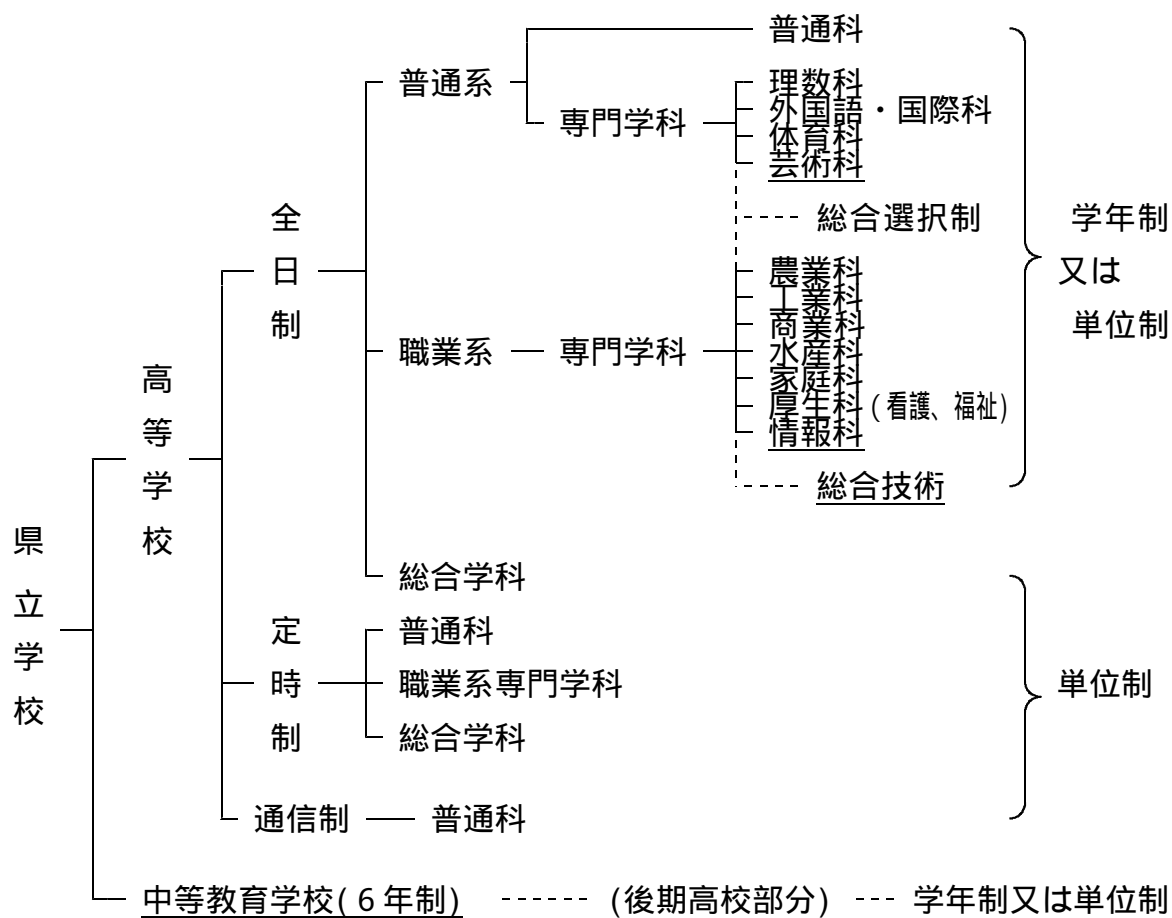
再編に当たっては、財政的なバランスを考慮しながら、一部の施設・設備の新設をする一方で、既設の施設・設備の有効活用を図るなどの工夫を行う。

5 再編後の県立高等学校

(1) 県立高等学校数



(2) 再編後の体系(ただし、盲・聾・養護学校は除く。)



下線___ は新しい形態・学科

再編計画の概要

1 魅力ある高等学校の設置

(1) 単位制高校

全日制高校については、総合学科だけではなく、普通科や一部の専門学科を含め、16校程度設置する。

なお、定時制の課程及び通信制の課程は、すべて単位制とする。

(単位制高校について)

単位制高校とは、学年の区分がなく、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて履修する科目を選択し、修得単位数の合計が、卒業に必要な単位数を満たせば、卒業できるシステムの高校で、修業年限は、全日制の課程においては3年、定時制の課程及び通信制の課程においては3年以上である。

(具体的内容)

ア 各学校ごとに地域や生徒の状況に応じて、学科、教科・科目及び選択幅等について十分な検討を行い、特色ある教育課程を編成する。

特に、普通科においては、生徒が学力を高めるために、習熟度別学習やチーム・ティーチング等、積極的に学習に取り組めるよう工夫する。

イ 前期と後期ごとに単位認定を行う2学期制の導入を考慮するとともに、春季の卒業・入学のほかに、秋季の卒業・入学の積極的導入を図る。

ウ 学校間連携を進めるとともに、大学での学修等の学校外での学修の単位認定制度などを活用する。

エ ガイダンス機能の充実を図り、生徒が自ら考え、適切な履修計画を作成できるようにする。

オ 定時制・通信制にあっては、定通併修制度や通信制協力校制度を活用するとともに、科目履修生の受入れ等、多様な教育の機会が確保できるよう配慮する。

(配置)

ア 全日制の課程

学校数の比較的多い1～4学区を重点に、いわゆる「伝統校」「新設校」にかかわらず、必要に応じて学校や学科の統合を行い設置する。

なお、単位制とする学科は、総合学科だけでなく、普通科や一部専門学科においても導入する。(14頁-ジ参照)

イ 定時制の課程

定時制の課程は原則として単位制とする。

なお、一部全日制高校を再編し、午前部、午後部、夜間部からなる、3部制定時制高校とし、3校程度設置する。(18^ハ-ジ 参照)

ウ 通信制の課程

通信制独立校を第1学区に1校設置する。(19^ハ-ジ 参照)

(2) 総合学科の設置

総合学科については、既設校の再編により、全県的なバランスを考慮しながら、各学区に1校程度を目標に、計9校程度設置する。

(総合学科について)

総合学科とは、普通科目と専門科目を幅広く開設し、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて、主体的に科目を選択しながら学習できる単位制の学科である。

(具体的内容)

ア 総合学科内に設置する選択学習の系列については、基礎・基本の充実を重視しつつ、進学、資格取得を十分考慮し、系統的な学習ができるよう工夫する。

イ 各学校ごとに特色を持った系列を設置するに当たっては、現在ある学科・コースの成果を継承して、各系列に応じた多様な科目選択を可能にするよう配慮する。

ウ 原則履修科目「産業社会と人間」の指導や生徒一人一人の科目履修・進路に関するガイダンスの充実を図る。

エ 前期と後期の単位認定を行う2学期制を導入する。

オ 地域の特性を生かした学校外における学修の単位認定制度を活用する。

(配置)

ア 普通科の設置比率の高い学区では、一部の普通科高校を総合学科高校に転換する。

イ 普通科の設置比率の低い学区では、一部の専門高校を総合学科高校に転換する。

(3) 中高一貫教育校

6年間一貫の中等教育学校を2校程度、市町村立中学校と接続した連携型一貫校を2校程度設置する。

なお、設置に当たっては、既設の全日制高校を転換することを原則とする。

(中高一貫教育校について)

中高一貫教育校は、中学校と高校の6年間を通して、高校入試の影響を受けずに、ゆとりの中で、生徒一人一人の個性をより重視した教育を行う学校である。

中等教育学校は、一つの学校として6年間を通して一体的・系統的に学ぶ学校であり、前期課程(3年)と後期課程(3年)に区分されている。

連携型一貫校は、市町村立中学校と県立高校が教育内容での連携や、教職員・生徒間交流等の連携を深める形で接続する学校である。

併設型一貫校は、高校と中学校を併設して、6年間を通して学ぶ学校である。

(具体的内容)

<中等教育学校>

ア 6年間を通して生徒の個性や能力の一層の伸長を図るため、自然科学等の特色ある教育内容の展開を工夫する。

イ 本県らしい中等教育学校の実現を目指し、大幅に弾力化した教育課程を工夫し、小集団での学習の充実や習熟度別学習などの多彩な学習活動を展開する。

<連携型中高一貫校>

ア 地域の特性を生かした中学校・高等学校の系統的な学習、異学年での体験学習や学校行事等を通して、生徒や教職員間の交流を促進する。

イ 高等学校での設置学科については、既設学科の成果を踏まえ、地域の特性を生かした学科とする。

(配置)

<中等教育学校>

ア 中等教育学校については、「研究会議」等で設置に向けた研究・検討を進める。

イ 設置地域・数については、県内のバランスを考慮しながら、2校程度とする。

<連携型中高一貫校>

ア 県では、関係市町村と連携しながら連携型一貫校を2校程度設置する。

イ 連携型一貫校については、市町村等からの要望等を踏まえ、今後も設置の検討を行う。

(4)(仮称)総合技術高校

学校や学科の統合により、たとえば農業科と工業科など複数の学科を併置し、専門学科の枠を越えた学習も可能とする「(仮称)総合技術高校」を2校程度設置する。

((仮称)総合技術高校について)

(仮称)総合技術高校は、複数の職業系専門学科(農業科・工業科・商業科などのいわゆる大学科)を併置し、学科の枠を越えた学習も可能にすることで専門分野の学習に深みと幅を与え、生徒の興味・関心や学習希望・進路希望などの多様化に対応することを目的とする。

(具体的内容)

ア 地域の特色や学校の専門性を生かした基幹的な学科(生産技術科・機械科などのいわゆる小学科)を設置する。

イ 学科によってはさらに専門的な分野についての類型を設定する。

たとえば、建設科の中に土木類型と建設類型などを設定する。

ウ 生徒各自の適性に合った学科などを、主体的に選択できる募集方法や教育課程とする。

たとえば、大学科ごと一括募集(くくり募集)の実施や、進路と専門学科・類型の選択について、十分な指導を受ける科目の設定などを行う。

エ 専門科目の系統的な学習や、国家資格認定の取得などを可能とする学科・類型などを設置する。

たとえば、前期・後期の2学期制とすることで、1年後期など早期から専門科目を設定する。

オ 普通教科・科目とともに専門教科・科目についても、学科を越えて選択できる科目を設定することで、幅広い学習を可能とする。

カ 専門高校としての施設・設備、人材を生かし、他の高校・小中学校や県民に開かれた学校づくりを進める。

(5) 「芸術科」の設置

音楽、美術、工芸、書道の従来からある芸術科目だけでなく、演劇や古典芸能などを含めた芸術分野の中から選択して専門的に学習する「芸術科」を、2校程度に設置する。

(芸術科について)

「芸術科」では、情操教育の充実を図るとともに、豊かな創造力を備え、将来、芸術分野において活躍し、文化活動の一層の活性化に資する人材の育成を行うことを目標とする。

(具体的内容)

ア 普通科と芸術科の併置とするが、学科の枠を越えた選択学習を可能とする。

また、複数の類型を置き、生徒の興味により他の類型の科目も選択できるようにする。

イ 芸術系大学・専門学校等への進学や、将来の芸術関係での活動に重点を置いた学習指導及び進路指導を行う。

ウ 学習意欲を喚起するような学校設定教科・科目を設けたり、生徒の才能を伸長するための学習機会を提供する。

エ 国内や県内に伝わる伝承技術等に関する科目を設置し、継承者を講師として招聘するなど、地域文化の伝承や地域社会との交流を図る。

オ 県内の文化財、文化施設、社会教育施設等の活用や、関係団体・大学等との連携などを積極的に進めるとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。

(配置)

既設1校に美術と工芸の類型を設置し、音楽等他の類型の設置についてはさらに検討する。

(6) 「情報科」の設置

コンピュータの構造、文書処理や表計算などの基本的な知識や利用技術だけでなく、たとえば美術や音楽などの創造的な表現力の要素も取り入れ、情報機器を最大限に活用した教育内容を持つ「情報科」を、2校程度に設置する。

(情報科について)

新しい専門学科「情報科」では、インターネット時代に代表される、映像・画像・音楽などが融合した情報内容(いわゆるコンテンツ)の制作など、既存の「工業」や「商業」の枠を越えて、多様な情報機器・媒体を活用できる技術者や、新たな産業領域の形成に貢献できるような、高度情報通信社会を支える人材を育成することを目標とする。

(具体的内容)

ア 情報科は、普通科や、他の専門学科などと併置する。

イ 情報分野に興味・関心を持つ生徒に、情報を扱う上での基礎的・基本的内容を学習する機会を提供する。

ウ 映像・画像や音楽など、多様で複合的な情報機器・手段を駆使した実習等を通じて、創造的で豊かな感性を育む場を用意する。

エ 学科の枠を越えた選択学習も可能な教育課程を編成する。

(7) 女子校の共学化

男女共同参画社会の進展を踏まえ、原則として女子校を共学化する。

(具体的内容)

- ア 共学化により、普通系学科比率の低い地域において、男子生徒の学校選択肢の拡大を図り、さらに、学校の活性化と魅力ある高等学校づくりを推進する。
- イ 女子校13校のうち11校程度を共学化し、残る2校程度については、女子校に入学を望む生徒に配慮し、学区を県内全域とするなどして存続する。
なお、今後の志願者の動向等によっては、必要に応じて共学化を行う。
- ウ 共学化に当たっては、必要に応じて学校の統合あるいは学科再構成を行い、一部の学校は単位制への転換を行う。
- エ これまでの女子校としての成果を十分踏まえるとともに、選択幅の広い教育課程の編成や多様な学習活動を展開する。
- オ 共学化に当たっては、既設の施設設備を活用しつつ必要な整備を行うが、校地の拡張は原則として行わないものとする。

(8) 国際高校の充実

外国人子女や帰国子女の受入れの拡大を図る一方、コミュニケーション能力にたけ、外国人と協同して創造的な仕事ができ、かつ、日本文化の発信役となるような真の国際人が育成されるよう、教育内容及び方法のさらなる充実を図る。

(具体的内容)

- ア 単位制を導入し、生徒募集の際に外国人子女や帰国子女の受入れを容易にしたり、海外の学校と連携して留学を一層促進したり、異年齢集団での授業の展開を図る。
- イ 英語自体が学習目的ではなく、英語を手段として他の科目を学べるよう、英語以外の教科を英語で展開したり、外国語教育が充実した大学と連携を図る。
- ウ 真の国際人として主体性のある資質を持った人材を育成するため、生徒の能力・個性に合わせた教科・科目を履修できるような教育課程を編成する。

2 学校の配置及び学科再構成等

(1) 県全体の学校配置

県立高等学校 142 校を 127 校程度（中等教育学校 2 校程度を含む。）とする。

(背景)

県内の中学校卒業生数は、ピーク時の平成元年 3 月には 97,786 人であったが、平成 2 年からは減少し続け、平成 13 年 3 月には 63,198 人となり、ピーク時の 64.6% に相当する数となっている。

さらに、平成 24 年 3 月には 55,000 人程度が見込まれており、これは、ピーク時のおよそ 56% に当たる数となる。

こうした中学校卒業生数の減少は、高校 1 校当たりの生徒数の減少をもたらすことになり、生徒の科目選択幅を狭くしたり、学校行事や部活動においても円滑な運営の妨げになるなど、生徒の学習活動や運営面に大きな影響を及ぼすことが懸念されるものである。

このため、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるように、県立高等学校の学校規模の適正化を図り、あわせて学校の適正な配置を実施するものである。

(学校配置及び学科再構成の方針)

ア 中学校卒業生数の減少を受け、県立高等学校の配置を全県的に見直し、複数校の統合により、現在の県立高等学校 142 校を平成 24 年春までに 127 校程度（中等教育学校 2 校程度を含む。）とする。

イ 1 校当たりの適正規模を、1 学級 40 人換算で原則 1 学年 4～8 学級とし、1 学年の学級数が 3 学級以下の学校は統合を前提とするが、学校・地域の状況等により統合しない場合もある。

ウ より一層の教育効果が期待できるなどの理由から、単独で単位制や総合学科等への転換を行うほか、複数校の統合による学科再構成等を行う。

エ 生徒の多様な学習ニーズに対応し、複数の学科やさまざまなコースを設置している学校では、学科の枠を越えた教科・科目選択を可能とするなど、教育課程の工夫・改善を行う。

オ 千葉ニュータウン地区については、既設校を移転することを含めて検討する。

(2) 全日制高校の配置

全日制高校 141 校を 123 校程度（中等教育学校 2 校程度を含む。）とする。

(学区別配置の方向性)

- ア 中学校卒業生数の減少の著しい学区はもとより、都市部の学区においても学校規模が縮小している学校が増加しており、必要に応じ統合や再配置を実施する。
- イ 生徒の興味・関心や進路選択の多様化を踏まえ、学校の統合や学科の再構成を行うとともに、普通系学科と職業系学科の比率の適正化を進める。
- ウ 総合学科設置校や単位制高校については、各学区ごとに配置できるよう、順次導入を図る。

普通科

普通科は、単独校 85 校、併置校 29 校の計 114 校あるが、統合や学科再構成により、97 校程度とする。

(具体的内容)

普通科を一層魅力あるものとするため、次のような特色化を図り、生徒の適性に
応じ、能力を培う環境を整備する。

- ア 生徒の興味・関心などに対応した学習を進められるよう、教科・科目の選択幅の拡大を図る。
- イ 一部の学校においては、生徒の幅広い進路選択を可能にし、個性の慎重が図れるよう、より一層弾力的な履修ができる単位制を導入する。
- ウ 各学校において、地域に根ざした科目や学力の定着を図るための学校設定科目等を設け、特色ある教育課程の編成を行う。
- エ 理数系を中心とした学習や学力向上を目的とする教育など、各学校の特色を生かした教育課程の編成を進める。
- オ 国際化・情報化・少子高齢化・環境問題等、社会のニーズに対応したコース・類型の設置に努める。
- カ 一部の普通科については、地域の実情等に応じて総合学科への転換を図る。
- キ 普通科と専門学科を併置することなどにより、それぞれの学科の特性を互いに活用できるようにする。
- ク 都市部にある一部の学校については、全日制普通科から 3 部制定時制高校や通信制独立校に再編する。

(配 置)

普通科比率の高い地域においては、一部普通科を総合学科や専門学科に転換する。
また、その比率の低い地域においては、生徒減少の中でも学科等の選択幅がある程度確保できるよう、普通科の割合を増やしつつ、職業学科を総合学科に転換するなどして、地域の実情に応じた再編を行う。

普通系専門学科・コース

既設の理数科、体育科、英語科等の普通系の専門学科の他に、新たに芸術系の学科を設置するなど、普通系の専門学科・コースの活性化を図る。

(具体的内容)

- ア 新たに芸術科を設置し、普通系専門学科の拡充を図る。
- イ 既設の学科については、生徒の志望動向を踏まえ、他学科との統合も考慮した学科やコース等への見直しを行う。
 - 外国語や国際系の学科については、単位制を導入するなど一層の充実と活性化を図る。
 - また、体育系の学科やコースは特色化・個性化を図るとともに、総合学科にスポーツ系列などの設置を進める。
- ウ 普通科の専門コースについても、既設コースの見直しを行うとともに、教育内容の充実に努め、活性化を図る。

職業系専門学科・類型

- a) 職業系専門学科は、単独校18校、併置校21校の計39校あるが、統合や学科再構成により28校程度とする。
- b) 専門教育の一層の充実を図るため、複数の専門学科を併置した「(仮称)総合技術高校」を2校程度設置する。
- c) 学科の枠を越え幅広い選択もできる教育課程の編成を行う。

(具体的内容)

- ア (仮称)総合技術高校をはじめ、複数の学科を持つ一部専門高校においては、生徒の募集方法や、学科および類型の内容・配置等を工夫し、生徒が学科の枠を越えた多様な科目選択もできるような教育課程を編成する。
- イ 他の学校の児童・生徒や県民が、施設設備や人材など専門学科の特色を生かした学習のできる機会を増やし、地域に開かれた学校づくりを進める。

ウ 先端技術に関する学習機会を設けるため拠点校を指定し、高度な機器を設置することを考慮するとともに、民間の協力を得ながら産業先端技術教育を充実させていく。

エ 専攻科については、その役割や内容について再検討し、適切な配置を行う。

-1 農業科

農業科設置校は、単独校4校、他学科併置校11校の計15校あるが、このうちの2校程度を「（仮称）総合技術高校」に統合・転換するとともに、他校との統合や学科の再構成により、10校程度とする。

（具体的内容）

一部の高校では、統合による総合学科等への転換等により、学科は廃止するが、農業関係の教科・科目を選択科目として学習できるような教育課程を編成し、農業教育の人材や施設設備を生かしていく。

-2 工業科

工業科設置校は、単独校5校、併置校3校の計8校あるが、このうちの2校程度を「（仮称）総合技術高校」に統合・転換し、その全体数は現状を維持する。

（具体的内容）

ア 基幹学科の充実と学科の再編を実施する。

イ 「ものづくり」に代表される工業教育の特色を十分に生かして、知識・技術・技能が調和のとれた人材の育成を目指す。

-3 商業科

商業科設置校は、単独校6校、併置校5校の計11校あり、統合や学科再構成を行うが、その全体数は現状を維持する。

（具体的内容）

ア 商業教育の基礎・基本を重視しながら資格取得や進学にも対応できる学科・類型を設置する。

イ 商業教育、とくに情報処理や簿記などの資格取得等に関連する学習ニーズも高いと考えられることから、県民向け講座を設置するなど、社会人の受入れを進める。

ウ 千葉商業高校については、商業教育の拠点校として内容の充実を図り、起業家精神を養う教育、観光、ITの活用など新しい分野にも取り組む。

-4 水産科

水産科設置校は、単独校2校、併置校1校の計3校あるが、各校の地域性等を考慮しながら他校との統合や学科再構成により、2校程度とする。

(具体的内容)

ア 海を単なる漁場としてとらえるのではなく、生命の源である海のすばらしさが実感できる学習、例えばマリンスポーツや海洋環境などについて学習できる新しい学科や類型の設置を検討する。

イ 現有の施設設備を活用し、体験学習を通して、生徒が海洋や水産業への理解を深める教育課程を編成する。

-5 家庭科(家政等)、厚生科(福祉・看護)

a) 家庭科はすべて他学科との併置で、10校にあるが、学校や学科の統合により、5校程度とする。

b) 厚生科は、福祉及び看護関係の学科について各1校ずつ、計2校に設置しているが福祉系学科や福祉系科目の拡充を進める。

(具体的内容)

ア 女子校6校に設置されている家庭科は7学科あるが、共学化及び学校や学科の統合に伴い、一部の家庭科を総合学科の系列や、普通科の選択教科・科目に含める。

イ 家庭科は福祉的内容も含むなど幅広い学習ができることから、男女が共修する内容の学科や類型などを設置する。

ウ 福祉系学科については、高齢社会を迎えニーズが高まっており、学科の設置や総合学科等に系列・類型を設置するなどして拡充を図る。

エ 統合校を含む4校程度に、福祉についての資格が取得可能な教育課程を編成する。また、すべての学区に福祉について学習できる高校を配置することを目指す。

オ 若葉看護高校の衛生看護科については、平成14年度に共学化すると同時に、看護師養成のための5年一貫教育を開始したところであるが、さらに、平成16年度に幕張総合高校と統合し、平成17年度に2年制の専攻科を設置する。

-6 新しい専門学科・類型

- a) 高度情報通信社会を支える人材の育成のため、「情報科」の設置をはじめ、情報に関する系列・類型の設置を行う。
- b) 本県の豊かな自然を舞台とした、新たな専門教育を展開するために、必要に応じて観光や環境などが学べる、学科や類型などの設置を行う。

(具体的内容)

- ア 高度な情報関連技術者や、新たな産業領域の形成に役立つような人材の育成のため、情報に関する既設学科・類型を充実させるとともに、「情報科」を置く高校の設置や、情報関係の系列・類型の設置を行う。
- イ 地域の状況や生徒の卒業後の進路等を十分踏まえ、必要に応じて、例えば、観光、環境などこれまで設置していない分野においても、学科・類型等を設置する。

総合学科 (再掲、8ページ参照)

総合学科については、既設校の再編により、全県的なバランスを考慮しながら、各学区に1校程度を目標に、計9校程度設置する。

(3) 定時制高校の配置

- a) 単位制の3部制定時制高校を3校程度設置する。
なお、設置学科は普通科または総合学科とする。
- b) 現在、独立校1校と夜間定時制併置校が16校あるが、統合及び再配置により夜間定時制併置校12校程度とする。
- c) 原則として単位制とし、通信制協力校とする。

(3部制定時制高校の具体的内容)

- ア 3部制定時制高校の設置に当たっては、全日制高校を転換することとし、午前部、午後部、夜間部で構成する。学期は前期・後期ごとに単位認定を行う2学期制を実施する。
- イ 生徒募集定員を定めるに当たっては、転編入のための特別定員枠を減じて定める。
- ウ 春季卒業・入学のほかに、秋季卒業・入学の積極的導入を図る。

エ 修業年限は4年を基本とするが、他部の科目履修などにより3年で卒業できることも可能とする。

オ 生徒の能力・適性、進路希望等に応じて、教科・科目を幅広く設定するとともに、適切に選択できるようガイダンス機能の充実を図る。

カ ホームルーム活動等については、生徒の自主的・創造的な活動が活発化するよう配慮する。

キ 科目履修生の受入れ等、多様な教育の機会を確保できるよう配慮する。

(単位制導入、通信制協力校の指定)

現在、定時制は単位制と同様な弾力的な運用を行っているが、今後もより一層柔軟な対応を行うため原則として単位制とするとともに、通信制協力校とし、生徒のスクーリングを実施し、通信制課程に在籍する生徒の良好な学習環境を確保する。

(4) 通信制高校の配置

通信制独立校を第1学区に1校設置する。

(独立校の設置の背景)

近年、生徒個人の生活や意識、さまざまな学修歴や学習動機は全日制課程以上に多様化してきており、これに伴って徐々に通信制への入学希望が増加している。

このことを踏まえ、現在の全日制との併置校から通信制課程を発展させ、自学自習を基本とする通信制の特長を生かし、インターネットの活用を含めた、より生徒の生活スタイルと学習スタイルに適合する通信制の独立校を設置する。

(具体的内容)

ア 独立校として開校することにより、学習環境の向上と定員枠の拡大を図る。

イ 添削指導・相談・連絡等でインターネットの活用を図る。

ウ 転・編入の随時受入れを可能とする弾力的な入学選抜とし、2学期制を導入して秋季卒業・入学を可能とする。

エ 生徒の適性・能力、進路希望に応じたガイダンス機能の充実や、生徒の悩み・相談に応えるためのカウンセリング機能の充実を図る。

オ 定時制高校を通信制協力校とし、生徒の学習環境の向上を図る。

(不登校等の子供たちを支援する場の提供)

不登校等の子供たちが、生きる力を養うことができるようにするとともに、学校復帰の手がかりにもなるよう、校内施設の一部を活用して、いわゆる「フリースクール」のような場を提供する。

具体計画

具体的な再編計画については、目標年次が10年後の平成24年春であることから、全体を2～3期に分けて段階的に再編を実施する。

なお、実施に当たっては県の財政状況を十分勘案しながら行うものとする。

1 第1期分について

第1期分については、地域の県民から要望の強い共学化の実施をはじめ、中学校卒業生数の減少に伴い再編が急がれるもの、また、近年の県民ニーズを強く反映したもの等を中心として取り上げ、概ね平成18年度頃までを再編時期としている。

第1期では32校程度を再編の対象とし、県立高等学校全体では、現在の142校を134校程度にする。

(1) 統合

- ・ 中学校卒業生数の減少の著しい学区等において統合を実施するとともに、学科再構成等を行う。
- ・ 一部の女子校は、共学化に当たって他校と統合を行う。
- ・ 職業系専門学科を持つ学校を統合し、（仮称）総合技術高校とするほか、学科の再構成を行う。
- ・ 統合後の学校は、生徒の興味や関心等ニーズの高い学科構成を予定しており、統合前の学校の伝統や成果を引き継ぎ、生徒の進路や目的にかなった、一層魅力ある高等学校づくりを目指す。

(2) 単位制高校

幕張総合高校や佐原女子高校をはじめ、国際高校、第4学区及び第7学区の高校において単位制を導入し、生徒の進路と適性にあった学力の向上を図る。

(3) 中高一貫教育校

第3学区において、連携型中高一貫校を設置する。

(4) 共学化

平成14年度から実施した若葉看護高校、平成15年度予定の佐原女子高校をはじめ、計9校を共学化する。

共学化に当たっては、男子生徒にとっても魅力のある学科構成とするほか、必要に応じて統合も実施する。

(5) 学科再構成等

- ・ 八街高校と君津青葉高校を順次総合学科単独校に転換する。さらに、職業系専門学科を総合学科に転換するほか、一部統合校においても総合学科を設置する。
- ・ 芸術科を既設校に、また、環境系の学科を統合校に設置する。

- ・ 千葉商業高校は商業教育の拠点校とし、学科を再構成する。

(6) 3部制定時制高校及び通信制独立校

これらは、近年ニーズが高まっており、第1期において1校ずつ設置する。

2 第2期以降について

第2期以降においても、生徒の興味・関心やニーズ及び多様な進路選択等に対応した、魅力ある高等学校づくりを進めていくこととする。

- (1) 中学校卒業生数の減少により、学校規模が縮小している学校が増加しており、必要に応じ統合を実施し学校規模の維持を図り、多様で活力ある教育活動の確保を図る。

統合の際には、第1期同様、(仮称)総合技術高校への転換や、ニーズの高い学科への再構成を行う。

- (2) 単位制高校や中高一貫教育校への転換、女子校の共学化、総合学科への転換や芸術科・情報科等の新しい学科の設置について検討する。

(3) 3部制定時制高校

県内の配置バランスを考慮し、2校程度設置することを検討する。

- (4) 千葉ニュータウン地区においては、既設校を移転することを含めて検討する。

参考資料

- 1 千葉県高等学校将来計画協議会、県立高等学校再編計画策定懇談会の審議経過等
- 2 県立高等学校の学校規模（平成14年度）
- 3 県立高等学校全日制の課程普通科通学区域図
- 4 中学校卒業生数と高等学校数の推移
- 5 県立高等学校募集定員の推移
- 6 平成14年度千葉県立高等学校の学科及びコース

< 参考資料 1 >

千葉県高等学校将来計画協議会、県立高等学校再編計画策定懇談会の審議経過等

1 千葉県高等学校将来計画協議会

目的 本県の将来展望を踏まえ、公立高等学校の在り方及び当面する諸課題並びに中高一貫教育に係る課題等について協議する。

委員協議会：学識経験者等からなる25名

期間 平成10年11月1日～12年3月31日

2 千葉県高等学校将来計画協議会協議経過

年度	回	千葉県高等学校将来計画協議会	
		日程	内 容
平成10年度	第1回	11 / 24	<ul style="list-style-type: none"> 公立高等学校の現状と課題について 中高一貫教育について 協議進行計画について
	第2回	1 / 25	<ul style="list-style-type: none"> 公立高等学校の現状と課題について 今後の検討課題について 中高一貫教育について
	第3回	3 / 18	<ul style="list-style-type: none"> 県立高等学校の在り方について 平成10年度中高一貫教育実践研究について
平成11年度	第4回	6 / 7	<ul style="list-style-type: none"> 中間まとめ（意見集）について 県立高等学校の在り方について
	第5回	9 / 14	<ul style="list-style-type: none"> 県立高等学校の在り方について 学区、具体的検討課題、中高一貫教育
	第6回	11 / 15	<ul style="list-style-type: none"> 学区の在り方について 県立高等学校再編成に係る具体的検討課題について 中高一貫教育について
	第7回	1 / 24	<ul style="list-style-type: none"> 最終まとめについて

3 県立高等学校再編計画策定懇談会

目的 本県の将来展望を踏まえ、県立高等学校の再編計画を立案するに当たり、幅広く意見を聴くため、県立高等学校再編計画策定懇談会を設置する。

委員 学識経験者等からなる30名

期間 平成12年7月1日～14年3月31日

4 県立高等学校再編計画策定懇談会協議内容

年度	回	日程	内 容
平成12年度	第1回	7 / 26	再編計画（素案）について（現状と課題、素案全体） 学校改善について
	第2回	9 / 12	再編計画（素案）について（素案全体） 学校改善基本方針について
	第3回	12 / 11	学校統合の基本的考え方について 女子校の共学化について （佐原女子高校の共学化、若葉看護高校について）
	第4回	3 / 12	学科構成の在り方、単位制高校の設置について
平成13年度	第5回	5 / 24	中高一貫教育校の配置、学校間連携等について
	第6回	9 / 6	県立高等学校再編計画（案）について
	第7回	11 / 7	県立高等学校再編計画（案）各論について 開かれた学校づくり・魅力ある学校の設置等
	第8回	1 / 10	高等学校の個性化・特色化について 学校の配置及び学科再構成について
	第9回	2 / 19	県立高等学校再編計画（案）全体について 全体を通しての討議

< 参考資料 2 >

県立高等学校の学校規模（平成14年度）

1学年学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	18	学校数	
全日制高校	普通科のみ	大多喜女子	野田 関宿 安房南	浦安南 松戸南 柏北 湖北 佐原文子 九十九里 天羽	千葉大宮 船橋古和釜 船橋法典 船橋豊富 船橋北 行徳市川南 松戸馬橋 松戸秋山 流山中央 流山南 流山北 野田北 布佐 沼南 沼南高柳 白里 市原緑	千葉大宮 船橋古和釜 船橋法典 船橋豊富 船橋北 行徳市川南 松戸馬橋 松戸秋山 流山中央 流山南 流山北 野田北 布佐 沼南 沼南高柳 白里 市原緑	生浜泉 犢橋 八千代東 八千代西 船橋芝山 船橋二和 市川北 市川西 茂原 姉崎	千城台 磯辺 津田沼 実初 船橋東 船橋西 船橋旭 鎌ヶ谷 鎌ヶ谷西 国分市川東 松戸六実 柏陵 柏中央 柏西 我孫子 富里 小見川 狭葉 京葉 市原八幡	千葉南 検見川 千葉北 若松 千葉西 国府台 小金 柏南 成田北 佐倉西 佐倉南 四街道 四街道北 君津 袖ヶ浦	千葉東 葛飾 佐倉 木更津	白井	幕張総合	85
		置 普通く 通科高 と校 専門学 科を		御宿 岬	多古 上総	松戸矢切 流山東 松尾 大多喜 大原	印旛 銚子 市原	柏井 土気 成田国際 佐倉東 木更津	千葉女子 八千代 薬園台 松戸国際 柏 佐原 匝 東 金 安房	船橋 成東 長生			29
	農業	市原園芸		旭農業		山武農業 茂原農業							4
	工業				東総工業 茂原工業	京葉工業 千葉工業 市川工業							5
	商業			鶴舞商業	東金商業 一宮商業	銚子商業	君津商業	千葉商業					6
	水産			銚子水産 安房水産									2
	厚生	若葉看護											1
	複学 数の 設置				流山 下総 勝浦 安房農業	清水 館山	君津青葉	成田西陵					8
	総合学科							八街					1
	学校数	1	2	7	17	29	21	29	25	8	1	1	141

1 学年学級数		1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	学校数	
定時制高校	普通科	普通科のみ	行野 徳田 佐倉 東 瑛 匠 金 東 生 長 狭 館 山	千 葉 東 葛 佐 飾 原	船 橋	1 2	
	普通科と専門学科			木更津東		1	
	専門学科	商 業	銚子商業	千葉商業			2
		工 業		千葉工業		葛南工業	2
学 校 数		9	5	2	1	1 7	
通信制高校	普通科	普通科のみ	1 学年募集人数 3 5 0 名			1	

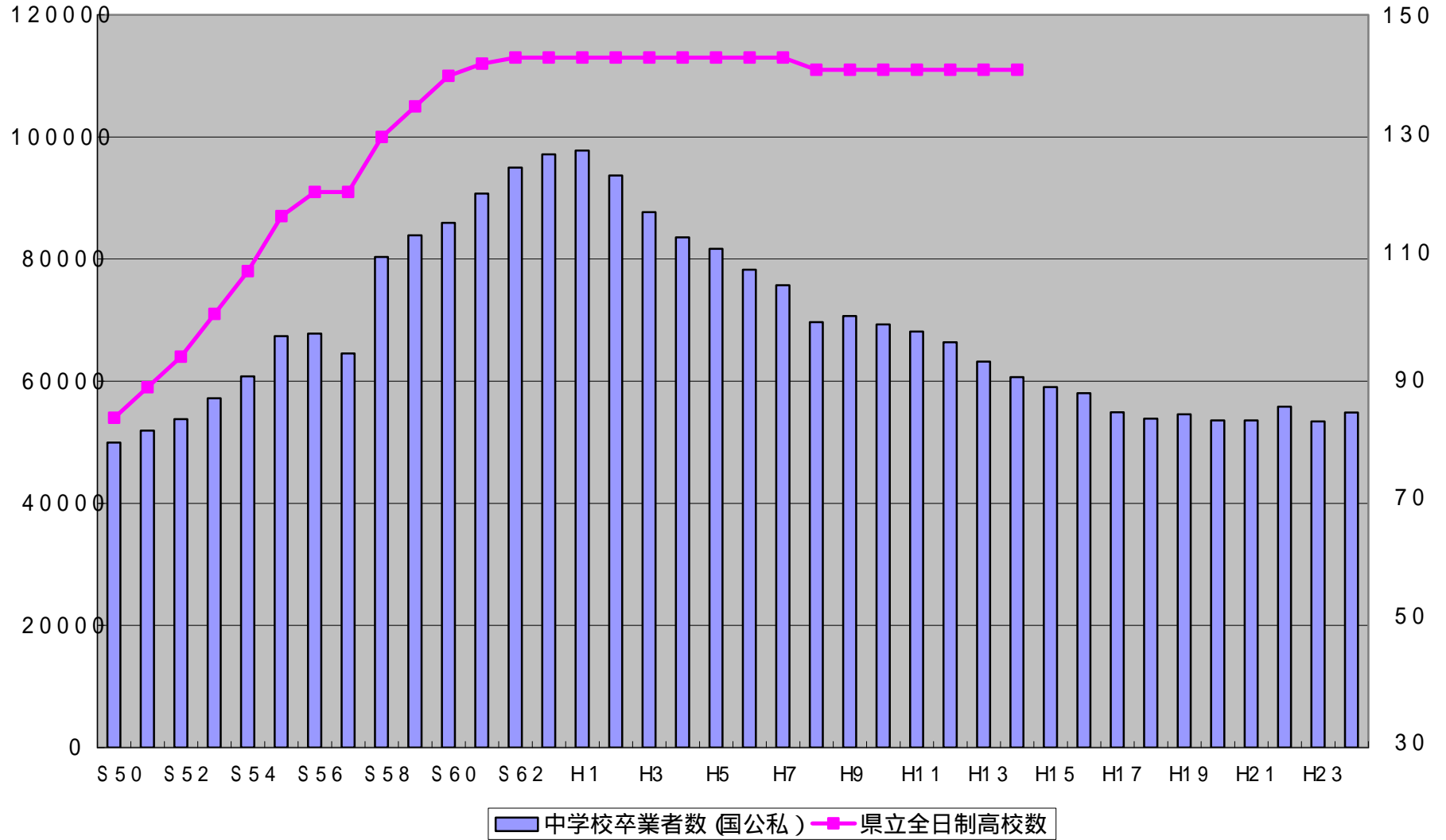
○県立高等学校全日制の課程普通科通学区域図



全日制の課程の普通科（幕張総合高校を除く）の学区については、志願者が居住する学区及び隣接する学区内のすべての高校を志願できる。

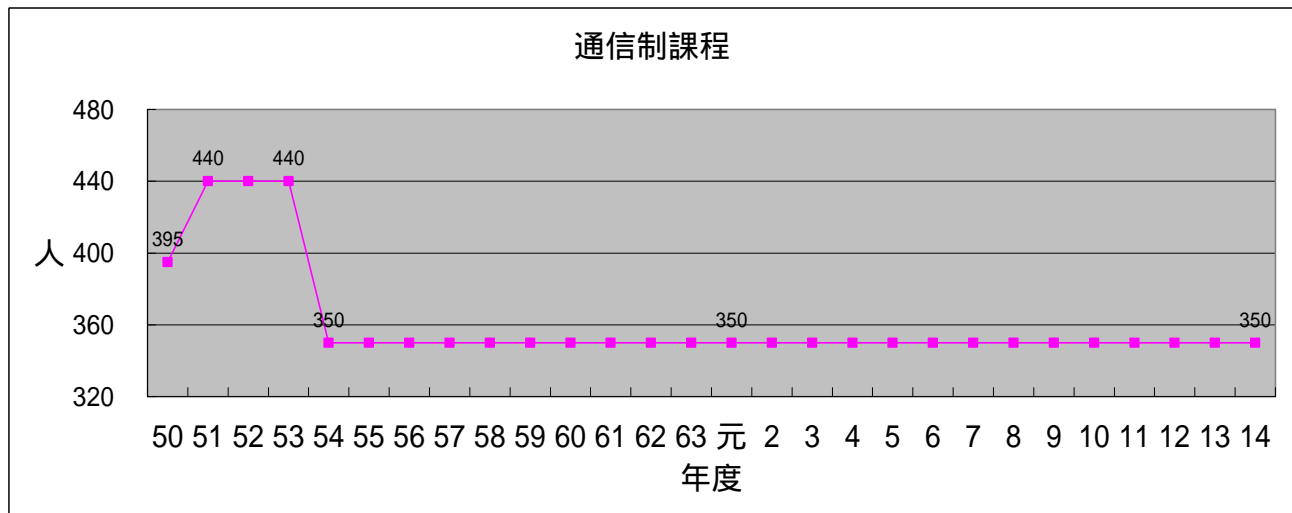
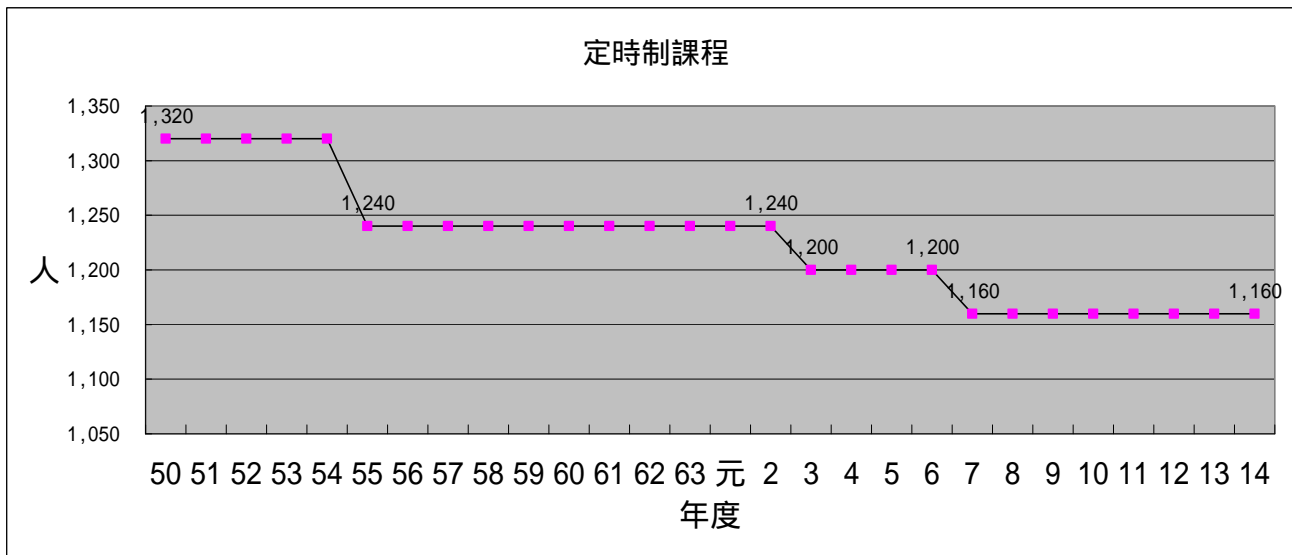
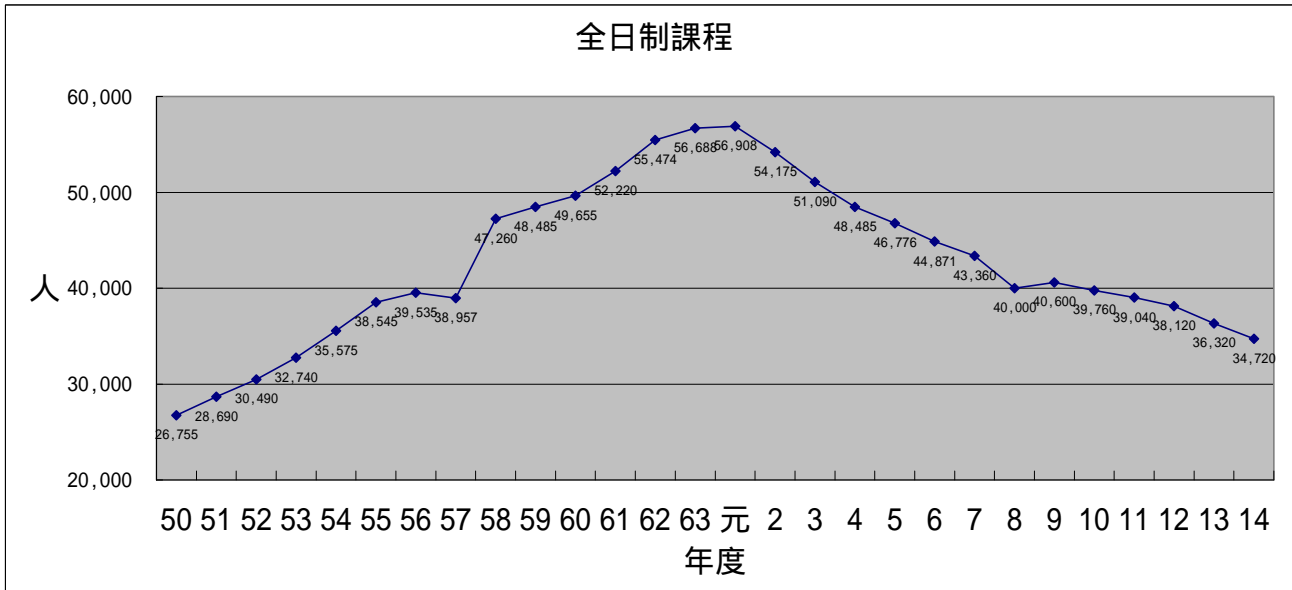
<参考資料4>

中学校卒業生数と高等学校数の推移



< 参考資料 5 >

県立高等学校募集定員の推移



平成14年度千葉県立高等学校の学科及びコース

< 参考資料6 >

普通科	第1学区	第2学区	第3学区	第4学区	第5学区	第6学区	第7学区	第8学区	第9学区				
普通科	千葉女子 千葉東 千葉南 検見川 千葉北 若松台 千城台 生浜磯辺	泉柏井 千葉大宮 土気千葉西 犢橋 幕張総合(鯉 鰯です。)	八千代 八千代東 八千代西 津田沼 実籾船橋 薬園台 船橋東 船橋西 船橋旭 船橋芝山	船橋二和 船橋古和釜 船橋法典 船橋豊富 船橋北 国府台 国分行徳 市川東 市川北 市川南	市川西 浦安 浦安南 松戸 小金 松戸国際 松戸南 松戸六実 松戸矢切 松戸馬橋 松戸秋山	鎌ヶ谷 鎌ヶ谷西 東葛飾 柏 柏南 柏陵 柏北 柏中央 柏西 流山中央 流山東	流山南 流山北 野田北 野田北 関宿 我孫子 湖北 布佐 沼南 沼南高柳	白井印旛 成田国際 成田北 富里 佐倉 佐倉東 佐倉西 佐倉南 四街道 四街道北	佐原 佐原女子 小見川 多古 銚子 匝瑳	松尾成東 東金白里 九十九里	長生茂原 大多喜 大多喜女子 大原宿 岬	長狭安房南 安房南館山 (臨時のみ)	大羽木更津 木更津東 木更津君津 上総 袖ヶ浦 市原 京葉 市原緑 姉崎 市原八幡

普通系専門学科	理数科	英語科	国際教養科	国際文化科	体育科	健康入ホ - ッ科
普通系専門学科	船橋 柏 佐原 匝瑳 成東 長生	柏井 土気 成田国際 匝瑳 大多喜 安房 市原	松戸国際 成田国際 東金	流山東	八千代	大原

合学科 { 総合学科
八街
君津青葉 }
は全日制的ほかに定時制通信制がある学校です。学区があるのは全日制普通科(幕張総合高校除く)だけです。

農業科	園芸科	畜産科	生産技術科	食品化学科	食品流通科	農業工学科	造園科	農業経済科	生産流通科	生物工学科	生活科学科
農業科	薬園台 流山 印旛 岬 上総 市原園芸	旭農業	成田西陵 下総 旭農業 山武農業 茂原農業 安房農業 君津青葉	清水	旭農業	安房農業	茂原農業	安房農業 山武農業	成田西陵 茂原農業 多古 市原園芸	山武農業 君津青葉	茂原農業 旭農業 山武農業 流山 成田西陵
				食品工業科	農業土木科	農業機械科	環境建設科				
				山武農業	茂原農業	茂原農業	成田西陵				

コース(普通科に設置)

英語	千葉南 犢橋 船橋東 浦安南 市川東 柏西	野田北 白井 富里 茂原 長狭 市原緑	情報	千葉大宮 船橋豊富 行徳 柏北 佐原女子 佐倉南
文化応用	船橋旭	大多喜女子	家庭基礎	九十九里 湖北
情報ヒューマン	松戸南 沼南	流山南 湖北 市原緑 船橋古和釜	生活ホビー	九十九里
情報処理	関宿	沼南	入ホ - ッ	生浜
英語教養	千葉大宮	佐原女子	ヒューマン	布佐
		布佐 船橋古和釜		
福祉教養		御宿	入ホ	白里
音楽	津田沼			

工業科	機械科	電子機械科	航空車両整備科	電気科	電子工業科	設備シミュレーション科	フィルム科	環境化学科	化学工業科	建設科	建築科
工業科	京葉工業 市川工業 清水 千葉工業 (臨時のみ) 葛南工業	千葉工業 東総工業 茂原工業	下総	千葉工業 市川工業 清水 東総工業 茂原工業 館山 葛南工業	京葉工業	京葉工業	清水	館山	茂原工業 東総工業 京葉工業	市川工業	市川工業 葛南工業
				情報技術科	環境工学科	工業化学科	建築科				
				千葉工業 東総工業	茂原工業	千葉工業	市川工業 葛南工業				

商業科	商業科	会計科	情報処理科	情報科学科	情報ヒューマン	国際経済科
商業科	千葉商業 銚子商業 東金商業 一宮商業 勝浦	館山 君津商業 木更津東 (臨時のみ) 鶴舞商業	流山 君津商業	千葉商業 流山 銚子商業 東金商業 一宮商業 君津商業	成田西陵 館山	下総 鶴舞商業 千葉商業 銚子商業 君津商業

水産科	漁業科	海洋生産科	水産食品科	無線通信科	家政科	食品調理科	生活ヒューマン	衛生看護科
水産科	勝浦	銚子水産	銚子水産 安房水産	銚子水産	千葉女子 八千代 印旛 銚子 館山	安房農業	松尾 御宿	若葉看護
	海洋技術科	水産製造科	水産増殖科	情報通信科		調理国際科	服飾ヒューマン	福祉教養科
	安房水産	勝浦	安房水産	勝浦		佐倉東	佐倉東	松戸矢切

家庭科

イソ
厚生科
イソ

芸術科
沼南高